

教育センターだより

～第107号～



令和6年10月4日発行

佐野市教育センター

佐野市上羽田町1134番地1

☎ 20-3108

20-3048(相談専用)

児童生徒との接し方をちょっと工夫してみませんか？

先生方はA、Bどちらのタイプですか？

①文章を読むときには、

A：批判的で分析的である。

B：表現や感情の変化を楽しむ。



②歴史の勉強のときには、

A：年号と出来事を順番に理解する。

B：人物のエピソードがあるとよい。

③作業するときは、

A：細かく順序よく説明される方がよい。

B：全体像を説明される方がよい。

これはごく一部の例ではあります。Aの方が多く人は、順序立てて考えたり、時間の流れに沿って考えたりするのが得意なタイプです。一方、Bの方が多く人は、情報を同時にまとまりとして考えるのが得意なタイプと言われます。脳の情報処理方法にはこのような2つの区分けがあり、Aを継次処理、Bを同時処理と言います。この2つの処理能力は全ての人がありますが、多くの方は得意な力を無意識に優先して使っていると言われてしています。もちろん、どちらか片方が優れているということではありません。継次処理タイプの方は、目的や最終地点など、全体だけを示されてもイメージが湧かないため、情報が不足している場合には、混乱してしまうことがあるようです。同時処理タイプの方は、全体を見て考えることができますが、細部のミスが多くなる傾向があります。人には得意不得意があるということです。

さて、先生方と関わりの深い児童生徒たちは、どちらのタイプでしょうか？私たちが意識すべきことは、授業など集団に対して情報を与える際に、文字だけで伝える、または絵だけで伝えるなど、偏った方法のみで伝えるのは望ましくないということです。例えば、音声のみの指示ではなく、黒板等に手順を書いてから指示をする、全体図を示すのみではなく、手順やマニュアルを示すなど、継次処理タイプと同時処理タイプのどちらにも伝わるような説明の仕方が必要となります。

平成19年度から、「特別支援教育は、障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。」という理念のもとスタートしました。また、特別支援教育は、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての園・学校において実施されるものです。さらに、障がいのある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障がいの有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味もっています。したがって、特別支援教育は特別の場所で行われる教育ではなく、全ての場所で行われることを念頭において指導していく必要があるのです。

本市の先生方は、目の前の児童生徒に対し、深い愛情をもち熱心な指導支援に取り組んでくださっています。だからこそ、日々の指導支援について悩みは尽きないことでしょう。もしも、日々の指導支援に課題や迷いを感じることはありませんでしたら、目の前にいる児童生徒の実態把握に努めたり、これまでの指導支援の方法を評価したりすると、今後の指導支援の手がかりが見つかることと思います。ここで押さえておきたいポイントがあります。教育的ニーズや合理的配慮を優先するあまり、育ちを阻んではいけないかという視点が重要となります。児童生徒を弱らせてしまう支援も存在するという事実もあります。育ちを促す合理的配慮を提供したいものです。今後も、先生方が関わっている児童生徒に対して、惜しめない愛情と適切な指導支援をしてくださることをお願いいたします。



令和6年度 教育講演会（佐野市教育センター・佐野市教育会 共催）

演題：「NEXT・GIGAの学びのデザイン」

講師： 合同会社未来教育デザイン 代表社員 平井 聡一郎 先生

8月7日(水)、葛生あくとプラザにおいて、佐野市教育会との共催による教育講演会が開催されました。長年にわたり情報教育の分野で活躍されている平井聡一郎先生に「NEXT・GIGAの学びのデザイン」と題して、御講話いただきました。〈以下、講話の概要を紹介します。〉

GIGAスクール構想というのは、学習指導要領の学びを実現するための環境整備です。主体的・対話的で深い学びとなる授業を目指し、社会の変化に対応するために、子供たちに生きるための様々なスキル・知識などを習得させることを目的に始めました。世界標準と比べて1クラス当たりの人数の多い日本において、世界標準とのギャップを埋めるためにテクノロジーの力を借りることになります。この3年間でどれくらい授業が変わったかということがポイントになります。今までの教師主導の一斉教授型の授業の中でのICT活用にとどまっているのではないかと感じています。次のフェーズであるNEXT・GIGAについては、今の段階から次の学びに向けて、学びを進化させなければいけないと思います。

社会は激しく変化しています。保護者や先生方のこれまで自分たちのやってきた経験・知識が、もう通用しなくなっています。Chat GPTの進化も早かったです。大学入試の問題で記述問題の採点をAIにやらせるのも、今の状況ならば可能になります。

学習指導要領は、これまで指導内容の変更点を示す改訂をしていましたが、今回は指導方法について初めて言及しています。これが主体的対話的で深い学びというものです。教室で拳手をさせ1人1人の意見を全部吸い上げようとしたら、とんでもない手間暇がかかります。デジタルなら、これを全員が提出し、コメントを加えるやり取りまでできます。その場にはいない人もオンラインで繋がることもできます。一見シーンとして活気のない授業に思われるかもしれませんが、1人1人が頭の中で色々と思いついて振り返り、考えたものをアウトプットします。さらに他の人の考えを読んで、インプット

したことをフィードバックします。シーンとしているけれど、これは立派な活気のある、やり取りのある授業ということになります。

Society 5.0。今の子供たちはいきなりすごいテクノロジー世界に最初からいます。グローバル化も進んでいます。海外の大学に行く日本人が本当にたくさんいます。ヨーロッパでもアメリカでも同様です。人口減少も深刻な状況です。また、これからは人生100年時代です。今の高校2年生の半数が107歳まで生きると言われています。若い先生方は65歳で公務員を終わって、その後100歳まで生きるとしたら、残りはどうしますか。35年から40年生きることになります。働かないわけにいかないでしょう。今の小・中・高校生たちは、最低でも80歳まで仕事をしなければならないかもしれません。企業も時代に合わせて様々な業種に手を広げています。我々は教育・仕事・引退という3ステージから、マルチステージの人生を歩むことになるでしょう。

「PBL(課題解決型学習)」と言われてますが主体的な学びのために、自分で求めなければいけないという時代が来ています。高等学校も生き残りをかけて探究的な学びを中心とした学校が増えています。「N校」「S校」だけでも今3万人を超える生徒がいます。日本の高校生は全体で300万人なので、100人に1人はN校系です。通信制はこれまで全日制の学校に行けない子供たちが行く学校から、選んでいく学校が変わってきたと言えます。海外の大学への進学という選択肢があることも忘れてはなりません。

「アンラーン(学びほぐし)」という言葉があります。私たちは今までの経験や知識が頭の中に癖のように染み込んでます。でも変化の激しい中で変わらなければならない時には、一度それを全部フラットにして0から考える必要があります。学校も一遍ほぐして、もう一度何のために学校はあるのか、どういう授業や学校行事が必要なのかということをゼロから考えて、作り直す必要があります。学校が大きく変わることでこれが「学校DX」です。そのきっかけとして

今のGIGAスクール構想で整備された端末が大きな力を発揮しています。

個別最適化と言われていく中で、これはみんなに等しくやらせたい、基本だよねとかいうところもあります。これから大事なものは学習指導要領で示されている「方向性」、自分の授業はどのレベルなのか立ち位置を知る「現状把握」です。全国学力・学習状況調査の結果も先生方の立ち位置の1つです。その学校の教育力が正答率という数字で示されています。子供たちの力ではなく、あれは授業力です。どれだけのことを子供たちが皆さんの授業から力を獲得したのかというその指標です。

とにかくまず今の現状を色眼鏡なしでそのまましっかり受け止め、数値化したもので現状把握をします。次に、その現状を分析します。さらに、どうしたらよいか対策を決めます。そしてその対策を実際に実行します。やってみたらもう一度効果があったかどうか現状把握をします。これを繰り返します。PDCAは変化の激しくない時には通用しますが、変化が激しい時には、見る(Observe)→分かる(Orient)→決める(Decide)→動く(Act)の「OODAループ」が有効になってきます。

皆さんの学校の現状を考えてみてください。変化への「葛藤」、「正当化」、「実行」、「定着」の4つのどの立ち位置にいるか。学校DXの改革のレベルはどうなったのか。それぞれ全く教員構成が異なり地域の実態も異なるため、今はこういう状態だから次はどんな手を打てばよいかと考えることが大切です。

DXには「学びのDX」と「校務のDX」の2つがあります。学びのDXとは、学習者主体の学びへの転換、つまり先生は黙れ、喋るな、子供たちの喋りを増やせということです。先生が全部教え込むのではなく、子供たちが自分たちで考えてアウトプットすることが大切です。校務のDXとは、紙を無くすこと、いろんなデータを全部デジタル化し、みんなで見られるように共有化することです。



文部科学省のメッセージとして「KPI(重要業績評価指標)」があります。教育DXに係るKPIの方向性においては、FAXでのやりとりと押印の廃止を令和7年度中に100%にするがあります。また、生成AIを校務で活用する学校を同じく令和7年度中に50%にするがあります。東京都の調査では、家庭で学習するた

めにチャットGPT等の生成AIを使ってる子供たちが、小学生で10%強、中高生は20%を超えています。先生方も授業で使う前に、校務等で生成AIを使ってください。SNSも同様です。自分で使ってみないと、何が危ないかわかりません。生成AIは、これから仕事上使わないという選択肢はありませんし、すでに勝手に自然に使うようになってしまっています。

学びのDXに関わるKPIとして、児童生徒同士でやり取りをする場面を令和8年度中に現状の30~40%から80%にするがあります。キーボードによる日本語入力スキルについては、現状の1分間20文字前後を令和8年度中に小学校で40文字、中学校で60文字まで最低でも入力できるようにするとなっています。背景には、全国学力・学習状況調査をCBT(Computer Based Testing)に全教科移行する方針があります。去年は英語がCBT、来年は理科がCBTになります。この際、キーボードが打てないからできませんと言ったら、誰の責任ですか。校長先生の責任です。KPIで出ている以上、やらないのは学校が悪くなります。

学びのアセスメントとして全国学力・学習状況調査の結果から立ち位置を分析し対策を考えることが大切です。先生方もあの問題を解き、今の子供にはどんな問題を解く力が求められているかを先生自身が理解することが大切です。

授業のデザインの立ち位置に関し、1つの指標としてOECDが2030年に向けた「生徒エージェンシー」を示しています。御自身の授業はどれに近いと考えてみてください。キーコンピテンシーは「自己効力感」、自分ができたという達成感、経験が大切です。私は最大のPBLは、中学生にとっては受験だと思っています。やらされているのではなく、いろんなことを自分で決める、意思決定・自己決定が大切です。


主体的な学びになった時に、授業のデザインが重要です。その際に「責任の段階的移行モデル」が参考となります。すなわち、①焦点を絞った指導→②教師がガイドする指導→③協働学習→④個別学習という4つの段階です。

みなさんの授業の振り返りをデータにして生成AIで分析すれば、1単位時間の評価が出ます。全国学力・学習状況調査の結果から学校の課題を発見し、その解決に向けて取り組んでください。授業が変われば学校が変わります。学校が変われば子供たちの未来が変わります。

令和6年度の教育センターの研修について

《ICT活用関係研修会》

【集合研修 2回】

- ① 5/10(金) **1人1台端末活用研修会**
「ロイロノート・基礎編」 
- ② 6/10(月) **1人1台端末を活用した授業づくり研修会①**
演習「今後行う授業の効果的な端末の活用場面」

【オンライン研修】手軽に学ぶ30分の研修

- ① 5/7(火)、5/16(木)
授業支援ソフト操作研修
「インタークラスクラウドの活用法」
- ② 5/9(木)、5/30(木)
学校 Web サイトシステム edumap 操作研修
「edumap の記事作成、ページ編集」
- ③ 5/13(月)、5/28(火)
L-gate 操作研修
「L-gate から MEXCBT テスト問題の活用」
- ④ 1・2月中に3回実施予定
アカウント管理ソフト操作研修
「インタークラスコンソールサポートで行う年次更新の方法」

《夏季研修会》 


- ① 7/29(月) 午前 **教育相談研修会**
「不登校経験者 & 保護者の話を聞こう」
高校生1名、保護者2名
- ② 7/29(月) 午後 **学級経営研修会**
「私の学級経営」「学級経営アイデア縁日」
市学校教育課 指導主事 他
- ③ 8/ 5(月) **情報教育研修会**
「1人1台端末を活用した授業づくり研修会②」
市教育センター 指導主事
- ④ 8/ 6(火) **特別支援教育研修会**
「日々の指導支援に役立つヒント」
市教育センター スクーリング・サポーター



7/29(月) 学級経営研修会の様子

《パワーアップ研修講座》

いずれも水曜日の18:00~19:30に開催

- ① 7/17(水) **音楽** 
「がんばらないで響かす合唱」
足利少年少女合唱団 指導者
- ② 7/24(水) **生活・総合**
「生活科・総合的な学習の時間の単元づくり」
安足教育事務所 指導主事
市教育センター 指導主事
- ③ 9/ 4(水) **情報教育**
「ロイロノートの活用 授業実践編」
(株)ロイロ 研修担当
- ④ 9/11(水) **理科**
「実験・観察の不安や悩みの解決に向けて」
元理科教員
- ⑤ 9/18(水) **特別支援教育**
「明日から使える指導のヒント提案します」
市教育センター 指導主事
市教育センター みんなのまなびば担当



7/17(水) パワーアップ研修講座(音楽)の様子

- ⑥ 10/23(水) **道徳**
「今求められる道徳科の授業づくり」
聖徳大学大学院 名誉教授
- ⑦ 10/30(水) **体育**
「動いて学ぼう！楽しい体育の実技研修」
市学校教育課 指導主事
市教育センター 指導主事
- ⑧ 11/13(水) **児童・生徒指導**
「正しい質問がいじめ解決へのカギ」
市学校教育課 指導主事
市教育センター スクールソーシャルワーカー
- ⑨ 11/27(水) **教育相談**
「不登校の未然防止・早期発見・早期支援」
市教育センター 公認心理師

「教育の力で佐野市を元気に！」佐野市教育センターは、皆さんの「やる気」と「不安」に応えます。